

令和2年度総合情報基盤センター研究開発報告書

2021年 5月 21日

研究代表者	氏 名	所 属
	石田俊一	理工学部情報科学科
研究分担者		
研究課題	Moodleにおける効果的な学力可視化の指標について	
研究開発期間	2020年 4月 1日 ～ 2021年 3月 31日	
研究の概要	<p>多くの教育現場において各学生の持つ学力を可視化し、能力を把握することで自主的な学習を促す取り組みが行われている。しかし教員及び関連部所の担当者が個別に設定する指標にて学力を評価し、スコア化して可視化しているため、学生にとって有益な情報を効果的に提供できているか、学習につながっているかの検証がされていないことから、各目的に対する学生にとってより有益な学力の可視化とは何かははっきりしていない。そこで学生にとって真に有益な学力の可視化指標がどのような形なのか、自主的な学習を促すための指標や、到達すべき目標を明確にするための指標、学生の自主的な学習を評価することでのモチベーション向上に向けた指標など、様々なテーマにおける可視化指標について比較、解析を行い、長所短所及び特徴を明確にすることで、各目的に合った指標の分類及び、各用途や目的に合った指標及び特徴の提示を目指す。</p>	
研究の成果	<p>これまでに収集したMoodleの活用法はもとより、R2年度の活用事例の科目、指導法における特性を考慮し分類を行い比較することで、一部の科目及び教育目的に即した指導法・活用法の提示を形式概念束を用いて行った。また、新型コロナの影響でアンケートのデータ収集に支障は出たが、授業内容に即した学力の可視化にて使用する指標や授業の進行状況に即した学力の可視化にて使用する指標など、いくつかの可視化内容を基に多角形グラフを用いて学生に提示し、アンケートデータを基に解析を継続して行うことで学生が求める学力の可視化内容について調べた。さらに各学生の持つ特徴と、Moodleにおける学習状況及び学習内容の習得状況、各学生の求める可視化内容に関するアンケートにて記述された特徴的なキーワード等を用いて、相関や従属性、含意従属の情報を基に解析を行うことで、学生のもつ特徴とその学生が求める学力の可視化内容・指標との関係性を調べた。その結果、一部の学生には求める可視化内容・指標と学生の持つ特徴における関係性を見つけることが出来た。この結果より、科目内容や教育目的のほか、履修対象となる学生の持つ特徴を基に、学生が求める学力の可視化内容・指標を選択する際の補助となることが期待でき、活用することでさらなる学習意欲の向上が期待できる。</p> <p>なお詳細については新型コロナ感染予防の観点から、当初予定していた関連学会での発表は出来なかったが、総合情報基盤センターの広報誌COMMONにて発表する予定である。</p>	

以上

※ 提出締切日：令和3年5月21日（金）（期限厳守）